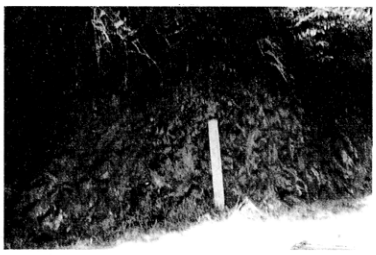
3

5 史料 その二

d 遺物（陶磁器，武器，武具，焼米，鉱滓，古銭，すずり，茶臼，木製品他）

e その他



大来目神社

天正二年（1.574年）の創建，一説には築城の城の鎮神として創建とも伝える。社殿もく石祠，石段四十四。

6 歴史的状況

a 交通路（陸路

b 商業関係（市:

c 手工業関係（鉱滓，鍛冶，紺屋，番匠〈大工〉その他）

d 農業関係（

e 宗教，信仰!

「搦手門」は家屋の手来位上の所にある

f 集落との関係

g 関連する城館

h 古戦場（首塚，

i その他

道隆寺跡の磨崖仏

三基のうち現在は一基残存。周囲には鎌倉期の古石塔

三十余基残る。

寛元四年（一二八六年）所付氏四代兼員の時創建

本尊としている。十一面観音を

開基は西蜀の蘭渓道隆と（五位の一南方華僧）

大覚禅師，三年間居住。

建長元年，京都→輪塔鎌倉へ建長寺を建立。

奉納の錦の戸帳（天文五四二年二月二十八日）が南傍前の寄進（手織を）

7 考察

a 歴史

1 築城者　築城に就いては三説がある

2 築城時期　① 永観二年……伴兼行説（984年）
② 長元九年……所付初代兼俊説（1.03年）
③ 南北朝時代（正平6〜7年頃（1.351—1.352年）

3 存続期間（築城から廃城まで）

① 高山名所誌（永観二年（984年）より）天正二年（1.574年）まで 590年間
② 名勝図会（長元九年（1036年）より（兼元まで）
19代 545年間，前後兼夏 一説に613年というとある
③ 地理纂考（兼員…一説には兼俊，兼道まで五百四十五年間）

4 主要居城者（城主の変遷）

※ 所付初代兼俊より十八代兼道（長元9 1.036〜天正8 1.580）544年間。

① 兼俊—② 兼経—③ 兼差—④ 兼員—⑤ 兼石—⑥ 兼藤—⑦ 兼尚—⑧ 兼重，
⑨ 秋兼—⑩ 兼氏—⑪ 兼元—⑫ 兼忠—⑬ 兼継—⑭ 兼久—⑮ 兼興—⑯ 兼純
⑰ 良兼—⑱ 兼道。

※ 天正九年 初代地頭 大野外記 —39代 飯牟礼八郎俊良（明治三年）まで（1.581—1.870）289年は地頭政治，但し居地頭は（1.2.3.45 39.38.39代の八名ご他は堪持地頭であった。

5 築城から廃城まで城館に加えられた変化（拡張部分他）

不明

6 主な事件

○五代 桂山城は始めての居地頭。墓は西方にある。刺賀征伐に参加
○十四代 島津図書は用水工事を援工し，名地頭として名を留めている

b 機能（記入自由欄）

性格

○恒久的城館，臨時城砦

密接な関連をもつ城館（大野城，米塚陣，永山陣，大脇城，弓張城，合戦田陣，検見崎城，和田城等）

軍事的にみて

所付氏城後は城，砦としての役目は果したとは思われない。
中心は麓の紅置で宮馬場を中心として南北二つの馬場が七通りもある。
地頭仮屋が現在の高山小学校の場所に設けられ，289年間に亘った。すべて鉄砲の伝来と普及はその戦術にあいて一変した。
本城よりむしろ弓張城（城山）が中心となり，その周囲に郷士の屋敷が設けられていた。

日常的領主支配の視点からみて

本城の東部（安田）二の丸の南部，西部の（西田，野首）末端，本城下（本佐貫）に士屋敷があったと伝える

報告者氏名　北園　博　　調査年月日　昭和五十九年二月十一日（日）晴

鹿児島県教育委員会

資料２　中世城館跡分布調査調査カード記入例（2）